

ひと

優れた女性科学者をたたえる猿橋賞を受けた古気候学者

あべ あやこ
阿部 彩子 さん(49)

コンピュータの画面に再現された氷河は、南下して現在のニューヨークをのみ込んだかと思うと今度は素早く後退していく。この12万年間の現実の氷床の動きをモデルによる計算結果で再現できた時は、小躍りしたという。氷河の大規模なものを氷床という。その変動のモデルを世界に先駆けてつくり、優れた女性科学者に贈られる猿橋賞を受けた。氷床の変動は現代の温暖化を解くかぎになる。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の報告書の筆者の一人にもなった。地球への興味から、大学で地理学を学んだ。就職試験も受けたが「自分には合わない」と、研究の道に。氷河の研究が盛んなスイス

に留学し、グリーンランドで調査をした。まもなく地球温暖化が社会問題として注目されていった。モデルづくりを始めた。二酸化炭素の量、大気の流れなど、気候の複雑さを再現するため、データを調整しては計算を繰り返す。この20年間「黒潮を逆流させるような失敗を何百回も重ねました」。来年にもまとまるIPCCの報告書づくりは佳境にある。東京大の准教授として、講義や家事の合間を縫って海外で専門家の会議に参加し、議論を闘わせる。「省エネルギーをしる、生活を变えろ、とただ言われても誰も納得できない。地球規模の変化から説明するのが科学者の役目です」

文・波多野陽 写真・相場郁朗